

令和6年度上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会

第1回市民啓発部会を開催しました



○6月18日（火）に第1回市民啓発部会を開催しました。参加者は、部会メンバー6人、事務局3人、上越地域在宅医療推進センター2人との11人でした。

○今回の議題

- (1) 令和5年度の実践の振り返り
 - (2) 令和6年度の目標と取組方針の検討
 - ・各委員（各職種・各団体）の立場でできる具体的な取組について意見交換
- 以上について情報共有と検討を行いました。

○部会での検討事項等

- (1) 令和5年度の実践の振り返り
 - ・部会で作成したACP（人生会議）のリーフレット（以下、リーフレット）の活用が不十分で、市民に浸透していない。
 - ・職種によってACPへの関わりに濃淡があり、専門職自身の理解も不足している。
 - ・まずは部会員がACPについて学ぶため、もしバナゲームや自主研修会を行った。

(2) 令和6年度の目標設定・取組方針の検討

●部会員それぞれの取組方針案について共有

〈薬剤師〉

- ・薬剤師会の研修でACPについての研修会を実施予定。

〈保健所〉

- ・多職種に向けた研修と上越地域人生会議

サポーターへのフォローアップ研修を実施予定。

〈栄養士〉

- ・研修会の中でリーフレットを配布したい。ライフステージのターニングポイントで関わる職種であることを活かし、“食”から将来を考えるきっかけを与えられるようにしたい。

〈ケアマネジャー〉

- ・これからの生活や支援について、本人とケアマネジャーがスムーズに話することができるように、ACPを意識しながら日頃の業務を行っていく。

〈医師〉

- ・診療時にリーフレットを渡す際は、キーワードだけを伝えて、患者自身に調べてもらえるような工夫をしている。

〈地域包括支援センター〉

- ・リーフレットを活用し、ACPの考え方を「自分事」として思ってもらえるように周知する必要がある。地域の集いの場で、もしバナゲームを活用しているほか、リーフレットを窓口相談時に渡している。

●令和6年度の目標と取組方針

【目標】

部会委員が所属する職能団体や職場において、ACPが身近なものになる。

【取組方針】

- ・職能団体や職場単位での研修会等を通じ、ACPの啓発やリーフレットの有効な活用方法を検討する。
- ・専門職を対象に、研修会の受講やリーフレットの活用による実態を調査して、今後、必要な活動の検討につなげる。

※部会2回目は令和6年8月実施予定。